

●会期:11月25日(水)～30日(月)

岸野 承・寛 展〈彫刻・陶芸〉

木の命脈に導かれるように彫り究極まで削ぎ落とされた岸野承先生の木彫作品は、まわりにある空虚を描き出していきます。弟の岸野寛先生は、古陶を学び伝統を踏まえつつ、独自性のある力強い造形と薪窯から生まれる野趣あふれる作品は、陶の美の本質を観るものと感じさせます。お二人の世界観が融合した共作もご覧ください。



左:岸野 承「羅漢」8×7×高さ24cm



右:岸野 寛「焼大壺」39.5×高さ42.5cm

吉川 かおり 展ーあわいの景ー〈彫刻〉

1989年武蔵野美術大学油絵学科を卒業後、個展・グループ展を中心に発表。今展では、アフリカでの取材から生まれた作品を含む40点を出品。動物たちとその上に広がる限らない空。アフリカでの地で得た、あわいに見えた風景、動物たちの眼差しの先の世界を独自の表現で展覧します。石粉粘土の動物と更に魅力を増したガラスとのコラボレーションもあわせてご覧ください。

「あわいの景」40.5×37.5×26.0cm
石粉粘土、透明水彩、ガラス



12月の予告

●会期:12月2日(水)～7日(月)

山内 滋夫 展〈洋画〉／柳下 季器展〈陶芸〉

●会期:12月9日(水)～14日(月)

灰原 愛 展〈彫刻〉

●会期:12月16日(水)～21日(月)

那波多目 功一 展〈日本画〉／古谷 宣幸 展〈陶芸〉

●会期:12月23日(水)～2027年1月4日(月)

奥谷 太一展〈洋画〉

●会期:12月23日(水)～2027年1月11日(月・祝)

茶道具初春の会

ART INFORMATION

「美」との出会いを提供して1世紀。暮らしに「アート」をお届けします。

横浜高島屋美術画廊のご案内

11月

November 2026



上原万征「瑞兆」銀、縞黒檀、鹿角 高さ4.1cm

●会期:11月11日(水)～16日(月)

第31回 手のひらの小宇宙

現代根付展〈彫刻〉

◎美術画廊は毎週火曜、会場準備のため閉廊、最終日は通常通り営業いたします。

※都合により営業時間・催し内容が変更になる場合がございます。また、商品の販売中止・販売期間が変更になる場合がございます。

高島屋の美術

高島屋各店美術画廊・
展覧会のご案内



横浜高島屋美術画廊のご案内は
【公式】横浜高島屋美術画廊
のInstagramでも
ご覧いただけます。



●会期:11月4日(水)～9日(月)

美しい驚き 泉谷 淑夫の世界 第13回記念展〈洋画〉

泉谷先生は、1952年神奈川県伊勢原市に生まれ、1983年横浜国立大学大学院教育学研究科を修了。その後は一陽展を中心に出品を重ね、個展活動やコンクールへの挑戦など精力的に作品制作・発表を続けておられます。社会派リアリズム絵画やシュルレアリスム絵画などに影響を受け、羊の群れを人間の姿になぞらえた「羊の世界」は多くの美術ファンを魅了しています。作家自身の落暉ナンバーともいべき13回展である今展でも驚きに富んだ美しい作品を一堂に展覧いたします。



「雲に乗りたい」22.7×15.8cm (SM) キャンバス・油彩

常信 明子 七宝展 — うつくしみのめしあがりもの —

常信先生は1991年神奈川県生まれ。2015年 東京藝術大学美術学部工芸科卒業後、同大学院美術研究科工芸専攻彫金を修了されました。代表作である「ことぶき」シリーズは、手毬寿司を模している造形と有線七宝による表現が魅力的な作品です。今展でも「めしあがりもの」をサブタイトルに美しくおいしい、新しい切り口の作品を発表いたします。

「はれのことぶき えび」6×6×高さ6cm



美術工芸サロ

齋藤 まゆ 陶展 — 色のカタチ —

●会期:11月11日(水)～16日(月)

第31回 手のひらの小宇宙 現代根付展〈彫刻〉

根付は印籠や煙草入れなどを持ち歩くために帯の下をぐららせて留具とした江戸時代から続く装身具です。この実用を兼ね備えた「用の美」からくる独特な造形とユーモアとウィット、文学性あふれた表現が特徴になっています。現代作家による新たな根付の世界観をご高覧ください。

左:(in)籠
罌兔「鴛」
(銀、銅、真鍮
高さ3cm(籠))

右:(outside)籠



●会期:11月11日(水)～16日(月)

高橋 朋子 展 一月の庭 星の汀 —〈陶芸〉

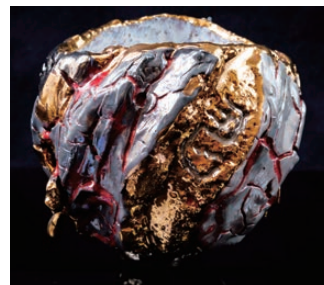
高橋朋子先生は1999年 沖縄県立芸術大学大学院修了後、数々の公募展に入選、受賞を続けられ、本年は伝統文化ボーラ賞奨励賞を受賞された注目作家です。様々な金属箔を使用した幾何学的な模様が煌めき、夜をイメージした黒の背景に月夜のような世界観を作品に浮かびあがらせているようです。新作の数々をご高覧ください。

「鏤光彩彩鉢 臘月」
23.5×22×高さ19.5cm



●会期:11月18日(水)～23日(月・祝)

陶芸家・市川 透 個展 — 神集へに集へ賜ひ —



「茶盃 神集へに集へ賜ひ」12.4×高さ11.5cm

1973年東京都出身。2011年陶芸家 隠崎隆一氏に師事。2015年岡山県玉野市で独立。「我々は何故生きるのか」永遠に解けない謎は作品との触れ合い、響きあいの中で答えが見出せるものだと思い新たな作品制作に挑戦しています。陶芸作品には珍しいピンクや紫色の他、黒、深紅、金銀彩などを施し、その作品は器でありながらもオブジェのように鑑賞者の感情に衝撃と余韻を与えているようです。

依田 万実 展

Season-To everything, there is a reason 〈日本画〉

依田先生は1985年、多摩美術大学大学院美術研究科日本画加山又造教室を修了。1988年より文化庁芸術家在外研修制度にてアメリカ、ニューメキシコ州サンタフェに派遣。以後、個展、グループ展で精力的に発表。今展では、「Season」と題し、木々や動物たちの姿を、季節の流れによって紡がれる様子を表現された作品20余点を展覧いたします。

「Season」53.0×53.0cm (10号S) 麻紙、岩絵具、インク、箔、鉛筆

